

第47回長野県同和教育研究大会

(2024年9月19日 長野県総合教育センター)

人権同和教育の更なる推進を図るため、識者の講演を聴くとともに、県内の実践に学ぶ県同和教育研究大会を9月19日に行いました。2008年度以来の16年ぶりの終日開催となりましたが、県下各地より約180名が参加され、2つの講演ならびに2つの実践報告から、今後の人権教育のこと、大切な人権課題について、熱心に聴き、またグループワークで意見を述べる等、主体的な学びの姿が見られました。



総合司会
堀内麻衣子副会長 (同推協)



主催者挨拶
白鳥貴文会長 (同推協)



共催者挨拶
召田誠課長 (心の支援課)

開会行事では、白鳥貴文会長 (同推協) ならびに召田誠課長 (県教育委員会事務局心の支援課) から挨拶があり、同推協結成61周年をふまえての新たな決意と、県教育委員会による人権教育施策等の積極的な推進について、お

示いただきました。全体進行は、堀内麻衣子副会長 (同推協) が務めました。



報告 平井八重子さん
(あけぼの改訂委員長)

開会行事に続き、2022・2023年度あけぼの改訂委員長 (長野市立古里小学校) の平井八重子さんより、「あけぼのの改訂について」報告があり、参加者からは、

- ・現代社会に即した多様な題材で、改めて貴重な本だと思った。今、道徳の教科書に偏りがちだが、「あけぼの」も利用していきたい。
- ・新たな視点、人権感覚に基づいた改訂がされていることを知った。有坂栄康さん等、身近な方も登場しており、活用したいと思う。
- ・編集する上で、昨今よく言われる“多様性”に配慮しながら、きっと様々な視点から情報を収集し、検討しながら練り上げられたのがこの“あけぼの”なんだと教えられた気がする。私が勤務する市では、一人一冊購入、全額負担してくださっている。他市町村でもそういう取り組みが増えることを望んでいる。等のご感想をいただきました。

続いて、「いまこそ人権教育を」～『生き抜く』ではなく、『生き合う』社会に ～と題して、全国人権教育研究協議会事務局の久保敬さんよりご講演をいただきました。参加者からは、

- ・本校も現在、不登校が増えていて、大きな課題となっている。『多様性を認める』と言いながら、不登校傾向の子も含めて、全ての子の思いを理解することができていないのではと思う。先生のお話を今後活かしたいと思った。
- ・ご自身の経験をたくさん聴けて、自分をふり返ることができた。この20年で教育が息苦しくなり、教師も子どもも息苦しい学校生活である。人権学習は、やらなくてはいけないからやっているという空気を感じる。生徒に『差別をなくす力』をつけていきたいという思いを胸に持っている教職員がどれだけいるのか疑問。職場で人権学習をどう組み立てるのかを、しっかり話したい。
- ・このようなお話は今現場にいる若い先生方にこそ聴いてもらえれば良いのではと思った。実際に今の学校現場は、様々な問題を抱え、先生方が本当に苦労していると思う。先生が元気ではないと子どもが元気ではないと思う今日この頃である。等のご感想をいただきました。



講演1 久保 敬さん
(全国人権教育研究協議会事務局員)